



オープンキャンパスを開催しました

教授 櫻木晋一（広報委員会委員長）

毎年恒例のオープンキャンパスは、7月23日（土）と8月7日（日）の2回開催されました。7月は236名、8月は415名、合計では651名の参加者があり、過去最高の数を記録しました。とりわけ、第二回目は広い233番教室が一杯となり、配布資料が足りなくなるほどの盛況でした。参加者651名の男女比はほぼ同数で、保護者も173名おられました。生徒ばかりでなく、保護者も一緒に子供たちの進路を考えるというのは今日的傾向でしょうか。地元山口からの参加者が344名と最多ですが、福岡103名、広島34名、岡山24名、愛媛22名、兵庫18名をはじめ、宮崎、大分、熊本、鹿児島からも二桁の参加者があり、西日本一帯から学生を集めている本学の特徴と人気ぶりが表れています。

大学が講義を15回実施した後に定期試験を実施するようになった関係で、お盆前のこの時期はまだ夏休みとはなっておらず、生協学生委員の諸君も良き先輩ぶりを発揮し、学内案内や学生生活のアドバイスをしてくれるなど、積極的にこの行事に協力してくれました。233番教室での全体説明のあと、B講義棟2階に設けた入試相談・就職相談などの特設ブースには、多くの生徒や保護者が相談や質問に来られ、対応する教職員もてんこ舞いの状況で嬉しい悲鳴をあげていました。日頃の学生の食事を体験できる学生食堂でのランチサービスも、各学科の先生方による分かりやすい模擬講義も、ナマの大学を実感できるということで好評でした。また、教員研究室を開放するツアーを開催しましたが、荻野学長も学長室を開放し、来訪者を迎え入れるという奮闘ぶりでした。参加者の多くが満足し、ふたたび受験生として市大に戻ってきてくれることを信じて止みません。



新校舎が完成しました

10月に新校舎が完成し、本館I棟・本館II棟と命名しました。夏休みが終わって大学に戻ってきた学生たちは、威風堂々としたこの建物に驚き、喜んでいる様子です。4年前に建設された立派な体育館に続き、下関市立大学の施設も一層充実してきました。この本館は、二つの建物を渡り廊下でつないでいるため一つに見えますが、実は二つの建物からなっています。この外観は、唐戸にある重要文化財「旧下関英国領事館」の赤レンガと石と列柱をイメージしたものです。すでに建っている厚生会館や講義棟の赤レンガ色とよくマッチしています。正門のすぐ奥に位置するこの5階建の堂々たる本館は、市大のシンボルとなる建物です。1階にはオープンカウンターの事務局やキャリアセンター、国際交流センター、健康相談室、音楽室などがあり、2階には地域共創センターが入っています。また、144の座席がある中教室や4つの小教室もあり、学生が利用するための空間となっています。地域共創センターには、鯨資料室とふく資料室を一体化した展示スペースも広く取っており、誇れる本学の顔となる部分となっています。3階には大学院ゾーンと先生方の研究室があり、4階、5階には研究室や会議室などおもに先生方が利用する部分となっています。新校舎の完成によって旧管理棟は取り壊され、30年以上前に建った建物はすべて姿を消してしまいます。「不惑」の年を超えた卒業生の方たちにとっては、母校が一変してしまったという印象を持たれるかもしれませんが、立派な8棟の建物群からなる新生下関市立大学の誕生と言ってもいいのではないのでしょうか。4年制大学が誕生してちょうど50年という節目にふさわしいキャンパス風景となりました。



就職活動

■逆風を追い風に!

教授 大内俊二 (キャリア委員会委員長)

出口の見えない不況と言われ、企業の採用活動が冷え込んでいり、本学の昨年度就職決定率は95.1%と全国平均を4ポイント上回りました。本年度も景気の低迷に加え、東日本大震災の影響で厳しい就職戦線が続いておりますが、このような状況にあっても屈することのない教養豊かな高度職業人の育成を目指し、本学では就職支援の更なる充実化に努めております。

「就業力マイスター制」が今年度からスタートしました。マイスター制は、学生が仕事を中心とした自分らしい生き方について考え、将来進みたい道を意識しつつ必要な科目を体系的に履修してゆくことを支援するプログラムです。また、この秋学期からキャリア科目として、「共同自主研究(PBL)」「キャリア概論」「ビジネス・プロフェッショナル」が開講されます。PBLは企業・自治体が実際に抱えている課題について、学生が社会人と連携しながら行う課題解決型の授業です。後の2者は企業などで活躍している社会人によるリレー講義の授業です。

学生の皆さんには、主体的な就職活動はもとより、大学が提供する豊富な就職支援メニューを大いに活用し、逆風に立ち向かって欲しいものです。

■りそなホールディングス内定



経済学科4年 石黒清貴

私は3つの柱を持って就活に挑みました。

1つ目は、ありのままの自分を表現することです。面接が始まりだした頃、この会社はこういう人が欲しいのではないだろうかと思ったらそのような人になりきって受けた事もありました。しかし、数を重ねていく内に自分の将来のビジョンを見失っていました。そこで、自分の考え、経験、やりたい仕事、それらを徹底的に考えまとめました。すると、受け答えにも詰まることなく自分を表現することが出来るようになりました。私は器用ではないのでありのままの自分の方が性に合っていたのかも知れません。

2つ目は就活を楽しむこと、未来の自分を想像してワクワクすることです。説明会等で聞いた体験談を自分の働く姿に置き換えてみる。それでワクワクするかどうかは私の会社選びの基準でした。

3つ目は、就職をゴールにしないことです。内定がゴールと考えるとプレッシャーになります。私は、落ちて凹まなかったし、内々定を頂いた今でも満足はしていません。

皆さんの未来は素晴らしい。夢と自信を持って就活に挑んでください。

■三菱重工業株式会社内定



国際商学科4年 上田聡美

私の就職活動は3年の10月に就活サイトに登録したのが始まりで、本格的に始めたのは12月です。

就職活動をする上で私が大事にしていた事は3つあります。

1. 自分とその会社に働いているところをイメージする!

入社したらどんな事をしたいのか、10年後、20年後、その会社で自分がどんな風になっていたのかを考える事が大事だからです。

2. 自分だけの情報を得る!

説明会に参加してもただ座っているだけでは他の学生と同じです。誰もが得られる情報からではなく、質問やOB・OG訪問をして自分だけが得た情報によって、思いや考えを膨らませていく事が大事なのです。

3. 「友達は友達、自分は自分」と割り切る!

早く・多く内定をもらった人や大企業から内定をもらった人が偉いという事はありません。友達がどんどん内定をもらう中で自分だけ内定が一つもない……と焦る事もあるかもしれませんが、しかし、周りとは比べる事よりも、自分の就職活動が計画通りに進んでいるかどうかの方が大事です。

最後に、私が就職活動を通して感じた事は、「自分には無理かもしれない」と思った瞬間に負けだという事です。「無理かも」ではなく、「自分に足りないものは何で、どうすれば無理ではなくなるのか」を考え、行動する事で道はどんどん開けていくものなのです。

自分があきらめさえしなければ何でもできる!と自信を持つ事、自分には他人にない魅力がある事を忘れずに、就職活動を楽しんで下さい。

■味の素ゼネラルフーズ株式会社内定



経済学科4年 伊藤和馬

就職活動を終えてみて、就職活動という約半年間の間に私が身を持って感じたこと、体験したことなどを、今から就職活動をされるみなさんに少しでも伝える事が出来たらと思います。

私が就職活動を意識し始めたのは、3年の秋、部活を引退してからでした。それまで、将来どんな職業に就きたいのか?などと深く考えた事はなく、早くから就職活動を始めていた友人に遅れているという焦りもありました。しかし、今考えてみると、最後まで部活をやり遂げてから就職活動を始めた事が、逆に良かったのではないかと感じています。

就職活動を通して私が強く感じたことは、「自分に自信を持つこと」「積極的に行動すること」がとても大切であるということです。私は就職活動を始めてすぐに食品業界に興味を持ち、食品業界一本に絞って就職活動をしていました。そのため親や周りの友人からも考え直すよう説得されました。しかしその度に、内定をとって絶対見返してやる!と強く誓い、就職活動への発奮材料にしました。就職活動はある意味自分との闘いです。自分が自分を信じる事が出来なければ、相手に自分を信じさせる事は出来ません。自分に自信をもって取り組んで下さい。

さらに、就職活動において、積極的に行動することはとても重要です。インターネットなどで企業の情報はいくらでも調べる事が出来ますが、自分の足で出向いて得た情報は、インターネットの10倍は糧になります。また、企業の雰囲気、働いている人の人柄などは実際に見てみないと分かりません。合同企業説明会、セミナー、企業の説明会などには積極的に参加して下さい。面接やエントリーシート記入の際に必須である志望動機は、実際に会社の雰囲気を知る事が出来れば、いくらでも膨らませる事が可能です。

就職活動では、辛いことや悔しいことなど、多々経験すると思います。しかし、この約半年間の頑張り次第で、自分の人生が良くも悪くも大きく変化すると思えば頑張れると思います。私自身、この半年間を通して大きく成長することが出来ました。就職氷河期といわれ、不安でいっぱいだと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください。そして、就職活動を楽しんで、満足のいく結果を勝ち取ってください。

インターンシップの夏

■多様な就業体験ができるインターンシップ

教授 松本義之(キャリア委員会副委員長)

本学キャリアセンターでは、学生の就業力向上を目的としてインターンシップによる就業体験学習を行っています。インターンシップに参加した学生は、様々な事業体において貴重な就業体験を得ることができ、学生の職業意識育成・就業力向上に繋げることができます。

大学主催でインターンシップが行われるようになってから11年目になりますが、多くの学生が学内インターンシップに参加するようになりました。学生が自主的に事業体を探して行う学外インターンシップも数多くの学生が参加しています。その中で6事業体6名の学生が単位認定を申請しました。海外の事業体に学生を派遣する国際インターンシップも行っており、今年度は、これまでの中国に加えて、新たに韓国の3事業体に対して5名の学生を派遣することができました。全体では42事業体・83名の学生が、インターンシップに参加しています。また、このような本学の就業力向上のための取り組みが、文部科学省の就業力GPとして採択されています。

インターンシップはキャリア教育の一環として行っており、派遣前には学内で事前学習を行います。インターンシップを行った後も、報告書の作成指導・報告会での発表など、様々な面から学生の就業体験をフォローする体制を整えています。また、キャリア教育科目として単位認定されます。

■下関商工会議所

国際商学科3年 西岡幸恵



私が下関商工会議所のインターンシップを志望した理由は、下関の現状を知り、理解したいと思ったからです。また、社会

に出て働くということを身を持って経験したいと考えたからです。

研修は5日間行われ、商工会議所が行っている様々な業務を各担当の方から説明していただきました。この研修では、座学だけでなく、頻繁に外に出て、実際の現場を体験させていただくことがあり、身をもって学ぶことができるという貴重な経験を積むことができました。研修の中で、色々な立場から物事を見ていくことが出来ました。物事は主体的に考えると同時に、客観的にどういった効果・影響があるのかを考えることは何をやるにおいても必要不可欠なのだと改めて感じました。職員の方々の働く姿やお話を聞き、物事の捉え方ひとつで、全然違うものになることを改めて知り、色々な視点から考えられるような視野の広さが大切だと考えました。

私はこの5日間を通して、物事の捉え方の大切さを強く実感しました。今後始まる就職活動では、このインターンシップで学んだこと・経験したことをしっかり生かし、自分の納得できるような結果を掴みとれるよう頑張っていきたいです。

■釜山国際交流財団

経済学科3年 品川紘乃

就職活動を目前に控えた今、友達と会話していても自然と「就活」という言葉が出てくるほど、就職活動に対して不安でいっぱいな状況です。しかし、今回のインターンシップへの参加は、そのもやもやした気持ちの中に、道しるべの様なものが見つけたように思います。

私は5日間、「釜山国際交流財団」にお世話になりました。韓国語も分からず、パソコンの操作もあまり得意ではない私は、常に余裕がない状態でした。そんな私を研修先の方々には優しく見守っていただきました。私が難しい顔をしていると冗談を言って「笑顔、笑顔！」と声をかけてくださったり、通りかかった際に「ちゃんとお飯食べてる？」と心配してくださったり、その言葉が私の大きな支えになりました。

たった5日間ではありますが、その中で人と出会い、同じ目標に向かって作業を進めていくことが非常に素敵な事だと再認識しました。今まで漠然としていた「こんな仕事をしたい」という気持ちも、はっきりしていくのを感じています。このインターンシップでの経験を生かし、これから就職活動を頑張りたいと思います。



■三菱商事(青島)有限公司

国際商学科3年 楊 勇

私がインターンシップに応募した動機は、今後の日中貿易に関する就職活動を始めるにあたり、今まで学んだ専門知識に商社での実際の貿易仕事の体験を加えて、他の学生よりも早めに情報を把握しようと思ったからです。そこで、私は①貿易実務の流れはどのように実行されるのか、②現在および将来に日中貿易がどのような発展をするのか、という二つの課題を持って参加しました。

私は会社の資料を見たり、実際に事務業務の補佐をすることにより実務に接しました。そして、日本貿易振興機構青島事務所を訪問し、所長から、今後の中国経済の発展や日中貿易の現状について教えていただきました。また、山口銀行青島分行長からは、近年、中国に進出する企業の状況と日本の立場から見た中国の経済発展の状況などを教えていただきました。

今回の参加によって、私は貿易実務の実習と国際貿易の分析力・洞察力の能力を高めることができました。将来、日中貿易



に関する会社に就職できるよう、これからも多くの知識を身につけようと思います。

(写真左 楊勇さん)

外国研修

美しいオックスフォードの街で～イギリス

国際商学科2年 泉友加里

私はこの外国研修でイギリスのオックスフォードへ行き、本当に充実した夏休みを過ごすことができました。初めて授業を受けた時は、当然ながら全て英語で授業が行われるため、先生が何を話しているのかほとんど理解できず、授業のアクティビティでグループを作って会話をしなければならない時も、何も話すことができなかったため、自分の英語能力の低さを痛感しました。言いたいことがあるのに言葉にできないもどかしさと恥ずかしさで、押し黙ってしまうことも多々ありましたが、学校にいる人々は、皆、英語を勉強中の身、多少の間違いは気にしないため、思い切って話してみようと努力するようになりました。また、いろいろな国々からさまざまな年齢の人々が来ていたので、異なる価値観を持つ人と話すのがとても楽しく、日本ではできない貴重な体験ができました。

ホームステイ先の家族の人々も優しく接してくださり、質問には丁寧に答えてくれたので、安心して日々の生活を送ることができました。そして、私たちが滞在していたオックスフォードはとても美しい街で、魅力的な場所がたくさんあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。確かに一ヶ月では、英語能力はなかなか向上しなかったかもしれませんが、しかし、今回の外国研修で出会った人々や体験した全てのことは、私にとって一生の思い出となりました。この体験を生かし、これからもさらに英語能力の向上に努めたいと思います。



ハンブルに囲まれた日常生活～韓国

国際商学科2年 早川麻希

私は、今回韓国での語学研修に参加し、とても貴重な体験をすることができました。外国研修では、日常生活をすること自体がハンブルに囲まれていたので、本当にいい環境だったと思います。

始めは、急にハンブルのみの生活に戸惑いましたが、次第に慣れると、とても楽しい事ばかりでした。現地で通っていたイーザーコリアンアカデミーの授業は全て韓国語で不安でしたが、先生が優しく分かりやすく説明してくださいました。そのため、耳が韓国語に慣れ、次第に聞き取りが出来るようになり、自然と単語を覚えることができました。現地の先生は、教科書には書いていない日常会話で使う言葉の微妙なニュアンスや発音の違いなども教えてくれるので、勉強科目としての韓国語だけでなく、コミュニケーションツールとして、言葉としての韓国語を学ぶ事ができました。例えば、日本語にもあるような最近生まれた略語や造語などもその一つです。このようなことも外国研修に行ったからこそ知る事ができました。

唯一の心残りは現地の人との交流が少なかった事です。あまり

上手く話せないで、自分から話しかける事が出来なかったのです。次に韓国に行くときに、下手でも話しかけていく勇気と自信を付けるために、これからも韓国語の勉強を頑張りたいと思いました。

今回の外国研修で、日本とは違う文化に触れることができ、自分の世界観を広げることもつながりました。外国研修に参加したことは、私にとってとても有意義な時間でした。



世界で一番勢いのある国～中国

国際商学科2年 中島裕二

私は中国への外国研修に参加して、普段の語学授業では得られない多くのことを経験しました。私は中国には行ったことがなかったため、ワクワクしていましたが、ニュースで見る反日運動の印象が強く、不安もありました。しかし、その不安は不要だったとすぐにわかりました。中国の首都である北京は、高層ビルや立派な高速道路などが目に入り、まさに「世界で一番勢いのある国」と感じました。また、道を聞こうと歩いていたら、逆に道を聞かれることがあっただけでなく、日本の漫画についても聞かれたので、中国には「人見知り」は無いんだと感じました。

北京大学での授業は、中国語のみで中国語も英語も不完全な私にとって、先生が話している内容が聞き取れず、先生とコミュニケーションをとることも苦労しました。先生はみんなに目を配ってくれ、わかるまで教えてくれただけでなく、中国語で冗談を言ったりと、とても楽しかったです。授業内容も、日常会話でよく使う実践的なものを取り上げてくれたので、授業が終わった後、地下鉄を乗り換える時や、買い物をする時に使って、自分の中国語の発音で通じた時の喜びは、一言では言い表せませんでした。

私はこの外国研修で、現在の自身の語学力を知っただけでなく、中国という国について感じ学んだことが多かったので、参加して本当に良かったと思いました。そして、今まで以上に中国語を学びたいと思いました。



■世界の厨房から

国際交流会ともだち部長 **山根恵太** (国際商学科3年)

7月7日に行われた「世界の厨房から」では、留学生と国際交流会ともだちサークルの部員が協力して、留学生の郷土料理を作り来場者の方々に試食してもらいました。中国3班、韓国2班、トルコ、タイ、台湾、日本がそれぞれ1班の合計9班で6か国9種類の料理を作りました。毎年行われている企画ですが、昨年と同様に梅光学院大学の留学生サポーターの方々や台湾からの留学生も招待しました。さらに今年は大学の茶道部にも協力してもらい、美味しい和菓子とお抹茶を体験できる席を設け、一層スケールの大きな企画になりました。

当日は、各料理100人以上をご用意しましたが、一時間もしないうちにどの料理も完食されました。中盤には、留学生と日本人学生による花柳流の日本舞踊の披露がありました。留学生達の演舞は一生懸命練習した成果が発揮されとてもきれいで、イベントに華を添えてくれました。

今回の「世界の厨房から」には、学外からの来場者、本学学生、教職員を含む180名の参加がありました。来場者の方々はもちろん、部員も世界各国の料理を知る機会になりました。また、留学生と部員の親睦を深めることもでき、大変充実した会になりました。



■第42回下関市立大学英語弁論大会

E.S.S. 弁論大会チーフ **島田美彩** (国際商学科3年)

7月16日に下関市立大学英語弁論大会が行われ、今回で42回目を迎えることができました。

英語弁論大会は、質疑応答、司会進行からすべて英語で行われます。今年の参加校は早稲田大学、同志社大学、福岡教育大学、水産大学校でした。

構成はプリベアスピーチとエクステスピーチの二部構成になっており、プリベアスピーチでは準備した原稿を何も見ずに弁論し、エクステスピーチではその場で出されたお題について弁論します。ここでは発音をはじめ、表現力を競います。今回は早稲田大学の篠原陽子さんが優勝しました。



この英語弁論大会は、出場する学生に限らず、来観されるお客様にとってもためになる一日になっていると思います。大会が終わった後、お菓子を食べながら出場者や審査員と話すこともできま

す。特に大学受験をひかえている高校生の生徒さんには全国の大学生と話すことのできる良いチャンスだと思います。この大会をきっかけに、国際意識が高まるなど良い刺激になっていただけたらとても嬉しいです。

また私たちE.S.S.のメンバーにとっても、英語弁論大会を開催することはとても良い刺激になっています。他大学の部活と関わることによって、自分たちの大学を見つめなおすことができます。同じ部活という共通点の中で何が違うかを発見することで勉強になる部分が多いです。そこで学んだことを「勉強になった」で終わらせるのではなく、その勉強になったことを生かせるよう日々の活動を見直していきたいです。

来年は43回目を開催する予定なので、皆様、ぜひおこしく下さい。私たちは、これからもこの伝統を引き継いでいきたいです。

■青島大学研修で考えたこと

教授 **飯塚 靖**

この写真は青島大学の北側にある浮山からの眺めです。現在はこのように立錐の余地もなくマンションが立



ち並んでいますが、何と2003年当時、そこは近代的ビルなどほとんどない全くの農村地帯だったそうです。僅か10年足らずで青島市郊外の農村はこのように激変を遂げているのです。青島市は今回が初めての訪問でしたが、その経済の急成長振りには驚かされました。郊外農村では煉瓦造りの古い農家の家屋が取り壊され、おしゃれな外観の高層マンションが次々に建設されていました。中心市街地には40～50階建ての高層ビルが林立し、しかも現在も次々と建設中であり、各所で工専用のクレーンがうなりを上げていました。道路は乗用車であふれ渋滞し、スーパーやレストランなどは何時行っても人々でごった返していました。まさにバブルの真最中という感じがします。

ただ、現在の中国は急激なハードウェアの発展にソフト面の構築が追いつかず、混乱の中にあると感じました。その典型例が、7月に浙江省温州市で起こった高速鉄道事故です。ハード面だけ日本などの新幹線を真似ても、それを安全に制御するソフトウェアがなければ新幹線システムは成り立たないのです。また、中国の分譲マンションは日本のように修繕積立費を徴収していないようですので、現在さかんに建設されているマンションも、将来の大規模修繕の際にはいろいろとトラブルが発生するのではないのでしょうか。このように考えると、

名目GDP総額で昨年日本を追い越した中国ですが、日本などの先進国の経験に学ぶことがまだまだ多いはずですよ。

他方で、これからは日本も中国の経済成長に謙虚に学び、20年にも及ぶ長い経済停滞から脱却するヒントを探るべきです。たとえば、中国では職場での男女平等が徹底され、結婚・出産後もほとんどの女性は仕事を続け、女性の管理職も非常に多いです。このように中国は女性パワーをフルに引き出しており、これが中国経済の活力源の一つと考えられます。



震災地にて

■東日本大震災に対する下関市立大学の取組について 准教授 吉弘憲介

平成23年3月11日は、日本に住む我々にとって、また、世界的にも忘れられない日となった。千年に一度の規模といわれる、東日本大震災の発生である。社会的に大きな事件や事故は、その発生と同時に時代や人々の感覚を分断し、人々の認識を変えてしまう。

経済学部を掲げる公立大学として、下関市立大学も震災後の社会における位置づけを考察していく学術的義務を負っている。この問題意識に応えるため、東日本大震災に対する、研究上、社会貢献上の取り組みが実施されている。

研究プロジェクトとして立ち上がっているのは「東日本大震災が提示した分権型社会の多層ガバナンスの論点に関する研究」である。これは、震災後のあるべき社会像を、集中集権型からの転換と位置づけ、分散分権型社会の構築とその機能的優位を考察するために本学の行財政、都市計画、環境、会計の専門家らによる共同研究プロジェクトである。

筆者も、このプロジェクトに参加し7月23日から3日間の現地調査を行った。被災地域に実際に入ったの調査では、凡百の感想ながら、ただ絶句するばかりであった。特に沿岸地域の状態を見るに、その被害の凄まじさ、復旧活動がまだ緒についたばかりであることを改めて実感させられることとなった。今後の復旧計画においては、自治体の役割が強調されるが人員の削減や、人的被害にあう中で被災地域では絶対的にマンパワーの足りない状態が続いている。筆者の担当する研究では、分権型社会における復興ビジョンの構築と基礎自治体の関係を突き詰めて考えていく予定である。

こうした研究プロジェクトと並行して、本学で蓄積・研究した震災関係の情報を、広く地域社会に還元する取組も行われている。本学の学園祭「馬関祭」においても10月23日に被災地域でボランティア活動した本学学生や災害復旧に尽力した下関市の職員らによる講演会が催された。また、来る12月1日の公開講座では、先の研究プロジェクトの中間報告が予定されている。研究と並行しての情報発信を通じて、下関市においてもこの社会問題を共有していく機会を今後も提供していく予定である。



■災害ボランティアを通して

国際商学科4年 本郷秀和

私は宮城県石巻市に、炊き出しと物資配布のボランティアとして訪れました。中でも雄勝という漁師町に訪れたときのことが忘れられません。海に面したこの町には2階建ての建物を超える30メートルもの津波が襲いかかりました。震災から5カ月が経った今でも街はどこに何があったのか分からない状況で、瓦礫にまみれた衣服や家の基盤を見て初めて、ここに生活があったことがわかります。そんな雄勝町の漁師の方に言われた言葉があります。「皆さんにとって復興とは



何でしょうか。瓦礫が無くなって街が元通りになること?不自由な生活に戻れること?それももちろん重要です。その中でも私にとっての復興とはこの震災で雄勝を離れて行った人たちが帰ってくることです。」この言葉を受けて、復興とは形の問題だけではないのだと強く実感しました。

震災から半年経過し、ボランティア活動も募金も西日本を筆頭に少なくなってきています。まだまだ被災地には皆さんの力が必要です。私は今回のボランティアの経験を通して「お互いさま」という綺麗な日本の精神を学びました。現場では与える側、与えられる側に分かれてしまうものですが、「困ったときはお互いさま」と思えば真心のこもったボランティアを行えます。一人の力は小さくても、絶対に街や人の力になります。一人の百歩より、百人の一步。もう一度、復興に力を注ぎませんか。

■被災地を訪れて

国際商学科2年 小田真衣

9月6日、7日の二日間、ボランティアのため宮城県の南三陸町を訪れた。一日目は、震災当初から炊き出しをされていたラーメン屋さんの手伝いや、被災された方の家財道具を仮設住宅に移動する手伝いを行った。二日目は、ホタテの貝殻を使ったキャンドル製作のお手伝いをした。これは漁業組合の女性部の方々が雇用創出のため行われているものだ。ホタテ貝の殻を使い、ロウを溶かしながら一個一個丁寧に作るため、とても大変な作業だった。

また、この時お手伝いさせていただいた方のお宅に泊めていただく事が出来た。津波で家が流されてしまったために現在は仮設住宅に住まわれており、ライフラインが全て復旧したのは7月との事だった。大変な状況下であったが、当時の様々な体験をうかがう事が出来る貴重な時間となった。さらに、車で市内の案内もしていただいた。今回の訪問では「被災地で何があり、どのようなことが起こったかをしっかり見る事」を課題としていたが、目にする場所はテレビで見た光景よりも圧倒された。瓦礫の下から使い古された靴を発見した際、この場所にあった生活が失われた事を実感し、言葉を失った。自分の目で見ることによってこんなにも違うのだと痛感した。

困難な状況にありながらも、東北の人たちは温かかった。この二日間は私の人生でも最高の経験ができた。人のぬくもりと縁のありがたさに感謝するのみだ。

「今度は遊びに」と言ってくださったので、そうしようと思う。



記念にいただいたキャンドルとメッセージ

平成23年度春季大会成績

体育会系サークル

■ 準硬式野球部

西日本地区学生軟式野球春季リーグ戦 1部 4位

■ 卓球部

第62回中国学生卓球選手権大会女子個人 3位 道下知香

■ 陸上競技部

北九州・下関地区大学体育大会 200m 1位 丸山裕生 800m 3位 額原光甫 5000m 3位 森本憲市郎 やり投げ 3位 金田拓也 走り幅跳び 3位 松本隆之 / 下関ナイター陸上 (I) 400m 1位 丸山裕生

■ 女子バスケットボール部

SUリーグ優勝 / 山口県学生バスケットボール春季大会 1部 3位

■ 男子バレーボール部

中国大学バレーボールリーグ春季大会 2部優勝 / 山口県大学高専学生バレーボール選手権春季大会準優勝

■ ハンドボール部

中四国学生ハンドボール選手権大会春季リーグ戦男子 3部 3位

■ バドミントン部

春季山口県学生バドミントン大会男子団体 3位 Aチーム 男子団体ベスト4 Bチーム 男子個人単準優勝 徳永利彦 男子個人複 3位 徳永利彦・藤浦圭太 女子個人単 3位 口羽歩 / 北九州・下関地区大学体育大会男子個人単優勝 徳永利彦 男子個人複優勝 徳永利彦・藤浦圭太

■ フットサル部

全国大学フットサル大会山口県大会 3位

■ 剣道部

下関地域・職域剣道大会団体優勝 Aチーム 男子個人 3位

■ 空手道部

北九州・下関地区大学男子個人組手 準優勝 佐々木由明 男子個人型 準優勝 堀田洋史 男子団体組手 3位

■ サッカー部

下関フェスティバル 4位

■ ソフトテニス部

下関市春季選手権大会男子複準優勝 下野裕介・香川旺之 女子複準優勝 金子萌・徳川弓子 / 山口県学生ソフトテニス選手権大会男子団体優勝 チームA 男子団体準優勝チームB 女子団体優勝 チームA / 平成23年度海峡戦 男子団体優勝 女子団体優勝

■ 柔道部

中四国学生柔道体重別選手権大会 73kg 級男子準優勝 溝渕拓也

■ 少林寺拳法部

山口県少林寺拳法大会男子級拳士準優勝 藤原康平・澤野翔太 女子級拳士準優勝山崎菜未・小野内梓 男女級拳士優勝池本愛美・草薙貴弘 男子有段優勝池藤敬・平尾聡志 男子有段準優勝神野航希・永川農 女子有段 3位 田阪優実・嶺詩織 男女有段優勝藤田裕香子・松本匡史 男女有段準優勝松本一樹・田中李奈 団体演武準優勝 Aチーム / 中四国少林寺拳法学生大会男子級拳士 3位 藤原康平・澤野翔太 男子単独有段の部準優勝 大塚大

全国大会出場

中央左・卓球部 道下知香さん、中央右・柔道部 溝渕拓也さん



■ 山口国体開催 ～なぎなた会場～

第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」が10月1～11日の日程で開催されました。

なぎなた大会の会場になった本学体育館では、8～10日の3日間、少年女子・成年女子による熱戦が繰り広げられ、9日には瑠子女王殿下がご観戦されました。会場の休憩所では、本学茶道部がお茶席を設け、参加者につかの間の休息をおもてなしました。



また、サッカー、剣道、馬術、相撲の競技会場でも、ボランティアスタッフとして本学の学生達が参加しました。

入試情報

		募集人員			試験会場	試験日	出願期間	合格発表
		経済学科	国際商学科	公共マネジメント学科				
一般選抜	前期日程	52名	52名	16名	下関・広島・大阪	2012年 2月25日(土)	2012年 1月23日(月)～ 2月1日(水)	2012年 3月5日(月)
	公立大学中期日程	83名	83名	27名		2012年 3月8日(木)		2012年 3月21日(水)
推薦入学	全国推薦	27名	27名	7名	下関	11月19日(土)	11月4日(金)～11日(金)	11月28日(月)
	地域推薦	A B	29名	29名				
特別選抜	帰国子女	2名	2名	1名				
	社会人	2名	2名	1名				
	中国引揚者等子女	若干名	若干名	若干名				
外国人留学生選抜		若干名	若干名	若干名				
第3年次編入学		10名	10名	—	11月19日(土)	10月20日(木)～ 27日(木)	11月28日(月)	

■春学期卒業式

9月30日(金)、学術センター3階会議室において、平成23年度春学期卒業式が行われ、経済学科13名、国際商学科6名、計19名が卒業しました。荻野学長は、「高い志を持ち、ネバーギブアップの精神で決めてあきらめることなく、コモンセンス(常識)を忘れずに行動してください」というはなむけの言葉をかけました。そして、最後に、応援団によるエールが贈られました。



■秋学期 市民大学公開講座

十八世紀イギリス小説と結婚

—小説に見られる結婚の理想と現実—

講師 雲島 悦郎 教授

日程 10/4～12/6 全10回

受講料 無料 定員 40名

経営の基本

—株式・株式会社・人の管理・資金の管理とは—

講師 平池 久義 教授

日程 10/1～11/5 全4回

受講料 2,000円 定員 10名

漢詩歳時記—春篇—

講師 武井 満幹 准教授

日程 10/29～12/24 全5回

受講料 2,500円 定員 無し

東日本大震災の復興とガバナンスのあり方を考える

講師 複数

日程 12/1 (16:30～18:30) 全1回

受講料 無料 定員 30名 ※申込締切 11/15

経済学から見る人間の姿

—古典と行動経済学による解説—

講師 森 邦恵 准教授

日程 12/6 (18:10～19:40) 全1回

受講料 無料 定員 無し ※申込締切 11/15

<開放授業> 教養総合H

外国語教育：教え方、習い方

講師 複数

日程 9/26～1/23 (16:30～18:00) 全15回

受講料 無料 定員 無し ※申込不要

<開放授業> 地域論

講師 吉津 直樹 教授

日程 9/26～1/23 (16:30～18:00) 全15回

受講料 無料 定員 無し ※申込不要

●上記以外にも随時公開講座を開講しています。詳細はホームページをご覧ください。

■鯨資料室による聞き取り調査活動

本学鯨資料室では、商業捕鯨に携わってこられた方に対して聞き取り調査を行い、捕鯨という存在がどういうものであったか、当時の労働環境はどのような状態であったかを明確にし、映像として記録しています。こうした手法はオーラルヒストリーと呼ばれ、近年注目されている調査方法です。

9月8日には、かつて捕鯨船の航海士や船長、砲手などを務められた沖吉 明氏にご協力いただき、捕鯨船・母船の船内での様子や、具体的な捕鯨・解体方法などについてのお話を撮影いたしました。

収録した映像は、今後、地域共創センターにおいてデジタルアーカイブ資料の一つとして公開する予定です。



■行事記録 (2011年7月～10月)

- 7月2日 市民大学公開講座
- 7日 世界の厨房から
- 14日 市大維新 みんなで討論なう。
- 16日 市大英語弁論大会
- 23日 オープンキャンパス
- 28日 第二回共創サロン
- 8月1日 春学期定期試験(～9日)
- 7日 オープンキャンパス
- 9日 消防訓練
- クリーンキャンパスデー
- 9月10日 大学院選抜(1次)
- 16日 大学院選抜(1次)合格発表
- 25日 ミニオープンキャンパス
- 26日 秋学期授業開始
- 30日 春学期卒業式
- 10月8日 国体(なぎなた会場)(～10日)
- 21日 大学祭前夜祭
- 22日 大学祭(～23日)

下関市立大学 公共マネジメント学科 開設記念シンポジウム

～地方分権時代の地域社会を展望する～

11月21日(月)

13:15開場／13:30開演／16:50終了予定

場所：B 講義棟 233 番教室

第一部 講演

「地方分権改革のアジェンダ」

講師：神野直彦氏(総務省地方財政審議会会長)

「地域分散型社会の戦略」

講師：金子勝氏(慶應義塾大学教授)

第二部 パネルディスカッション

「関門から見る地域のマネジメント」

パネリスト：神野直彦氏、金子勝氏、中尾友昭氏(下関市長)

コーディネーター：荻野喜弘氏(下関市立大学学長)

入場無料(宛先は表紙右上)

※入場希望の方は、住所、氏名、連絡先を記入し、葉書・FAX・本学HPにて、11月16日までに必着でお申し込み下さい。